

執 筆 要 領

1. 投稿の際には、本会所定の原稿表紙に必要事項を記入する。また本文、図はそれぞれ所定の原稿用紙および図面原稿用紙を用いる。
2. 「寄稿区分」に示す原稿のページ制限を厳守する。
原稿枚数には表、図、写真、題目、英文要旨等すべてを含みます。字数換算は 20 項を参照のこと。
3. 表、図、写真は本文中に挿入せず、本文原稿右欄外にその挿入箇所を記入する。表、図、写真には右下隅に著者名を記入する。表は原稿用紙または A 4 判の用紙に整然と書く。
4. 写真は原寸印刷を原則とするので、枚数にかかわらず、横 65 mm, 130 mm, 縦 180 mm 以内とし、必ず倍率または基準寸法を記入する。写真は A 4 判の厚手の用紙に貼付する。
5. 原稿は黒インキ、ペン書きとする。
6. 表題は簡潔で、しかも本文の内容を適切に表現するものでなければならない(表 2 例参照)。連報形式は避ける。
7. 文章は平易な口語体とし、漢字は特殊な専門用語のほかは当用漢字を用い、かなは新かなづかいによる。(表 4 参照)
8. 英文要旨は、その論文の目的、方法、重要な結果などを簡潔明確にまとめ、タイプ用紙にダブルスペースでタイプ打ちとする。
9. 章、節、項、小見出しの記号は原則として下記の要領に従って表記する。

章	1	2	3
節	1.1	1.2	1.3
項	1.1.1	1.1.2	1.1.3
小見出し	(1)	(2)	(3)
10. 単位は原則として SI, MKS または CGS 単位系を用いる。単位の略記号は表 1 を参照する。
11. 周知でない術語や装置などについては脚注などによりわかりやすく説明する。(表 2 参照)
12. 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはカナ書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名は化学名あるいは化学記号によって適当に示す。(表 2 例参照)
13. 英字の大文字、小文字で混同しやすいものにはⒶⓐ、ギリシャ文字にはⓐ, 添字には上ツキ、下ツキを傍記(いずれも朱記)する。また、特別の場合以外は原則として数式、単位などのイタリック、ゴシックの指定は事務局で行なう。
14. 数式は原則として $\frac{a}{b}$, $\frac{a+b}{c+d}$ のように書くが、簡単な数式は a/b , $(a+b)/(c+d)$ のように 1 行に書く。
15. 数学記号が繰り返し使用される場合の記号説明は本文末に一括する。周知でない術語は英文を付記する。
16. 表、図、写真の説明は英文とし(技術資料、講義、講演、解説はこの限りでない)、表、図、写真の意味が本文を読まなくとも理解できるように書く。
17. 図は(文字、記号も含め)、製版に直接使用できるように刷り上り時の 2 ないし 3 倍の大きさにトレースをする。トレースにあたっては太線 0.4 mm~0.7 mm, 細線 0.2 mm~0.5 mm 程度が標準である。フリーハンドはさける。図は縦・横の説明も含め青罫枠内におさまるように書く。不正確または不鮮明な図の場合は本会より著者に訂正を求める。
18. カラー写真は、編集委員会で認められたものに限り 2 頁までを著者による実費負担を条件として認める。
19. 参考文献は通し番号を付け、本文の最後一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号を上ツキ数字で示す。また公表されていないものについては私信とする。
参考文献は、著者氏名：雑誌名、巻数(発行年)号数、ページの順に記載する。雑誌名は表 3 の略記例に従う。単行書は、著者氏名：書名(発行年)、ページ【出版社】の順に記載し、多数の著者による分担執筆のような場合は編者を書名の後に付記する。

(例) P. L. McCARRON and G. R. BELTON: Trans. Met. Soc. AIME, 245 (1969), p. 1161

H. D. GREENBERG: Metal Prog., 91 (1967) 5, p. 93

学振製鋼19委員会：製鋼反応の推奨平衡値, (1968), p. 55 [日刊工業新聞社]

八木貞之助：製鉄・製鋼(和田編), 金属工学講座 4, (1960), p. 1 [朝倉書店]

J. NUTTING: Materials Technology in Steam Reforming Processes, ed. by

C. EDELEANU, (1966), p. 11 [Pergamon Press]

佐藤忠雄：鋼の熱処理(鉄鋼協会編), (1970), p. 255 [丸善]

20. 字数換算については次を標準とする。

1) 題目, 英文要旨: 原稿用紙(450字詰) 2.5枚(約半ページ)程度にあたる。

2) 本文: 会誌の刷り上り1頁は原稿用紙(450字詰) 5枚にあたる。

3) 表: 字数換算は既刊の「鉄と鋼」の表を参照のこと。

4) 図, 写真: 図, 写真の刷り上り幅は縦軸説明を含めて(1) 65 mm, (2) 130 mmのいずれかを標準とする。

図面刷り上り高さ	幅 65 mm の換算字数	幅 130 mm の換算字数
40 mm	250 字	500 字
50	325	650
60	400	800
70	475	950
80	550	1100
90	625	1250
100	700	1400
説明文(英文)	100 字が標準(30語)	200 字が標準(60語)